



現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、クッキングプログラムは開講を見合わせております。みなさまが健康に過ごせるよう、レシピをご提供いただきました。

【材料】分量：2人分

- | | |
|---------------|----------------|
| ・生鮭：2切れ | ・紫玉ねぎ：1/8個 |
| ・塩：小さじ1/8 | ・きゅうりのピクルス：20g |
| ・こしょう：少々 | ・グリーンレタス：2枚 |
| ・小麦粉：大さじ1 | ・ミニトマト：4個 |
| ・オリーブオイル：小さじ2 | 〔プレーンヨーグルト：50g |
| ・バター：5g | A 塩：小さじ1/8 |
| ・白ワイン：小さじ2 | こしょう：少々 |

【作り方】

- 1 ― 紫玉ねぎときゅうりのピクルスをみじん切りにする。
- 2 ― [A]と[1]を合わせてヨーグルトタルタルを作る。
- 3 ― 生鮭に塩、こしょうを振り小麦粉をはたく。フライパンを中火で熱しオリーブオイル、バターを加え鮭を皮目から焼く。焼き色がついたら裏返し白ワインを加え蓋をして3～4分ほど焼く。
- 4 ― [3]を器に盛り[2]をかける。

ヨーグルトタルタルは
さっぱりとしたヘルシーレシピ。
ソースはサラダや
肉料理にも使えます。

レシピ提供：金子あきこ ▶
【管理栄養士、節約美容料理研究家】



【すばすたちよだクラブ】スポーツ(運動)もスタディ(学習)もできる区立の会員制クラブ。詳細はこちらまで→千代田区立スポーツセンター 1階受付 9:00-21:00/毎月第3月曜休館(祝日の場合は翌平日) <https://www.spst-chiyoda.jp/program/>

シリーズ

千代田の学び人にあいたい vol.11

嶋田 匠さん [ソーシャルバーPORTO オーナー/コアキナイ 代表]



前号の「学び人」弦本ビル オーナーの弦本卓也さん(左)からご紹介いただき、今回は、ソーシャルバーPORTO オーナー/コアキナイ 代表の嶋田匠さん(右)にお話を伺いました。



弦本さんからのご質問「都心で働く人々の変化、そしてそれらの人々の魅力を引き立てる“居場所”の持つ力とは？」

千代田区有楽町にある「ソーシャルバー PORTO」は日替わり店長たちによって運営されるバーです。「誰もが“居場所”を感じられる世の中をつくる」という想いを軸に、PORTOのオーナーを務めています。僕は“居場所”というものを“よりどころ”と“やぐどころ”の2つだと考えています。“よりどころ”とは、利害とは無関係に、個と個で信頼し合っている関係性。“やぐどころ”とは、個人やコミュニティに対して価値を提供できるから認められる、必要とされるという関係性。僕は、“よりどころ”と“やぐどころ”両方感じている状態を当たり前にしていくことを、事業を通して実現していきたいと思っています。

今、新型コロナウイルス感染症の影響でより加速したと思いますが、人々の働き方はとても変わっているように感じます。本業以外に、自分が会社を通してではなく、個人として社会と直接繋がりたいという考えが広がっていると感じています。PORTOで店長をしている人もそのような動機の人が多いです。普段、週5のフルタイムで仕事をしているけれど、月1回PORTOで店長を務める。自分らしいもう一つの“やぐどころ”を持つことを求めている人は増えていると感じます。自分の自然なあり方を表現する事業を望めば誰もが持てると思いいます。その人に会いたくてお店に訪れる、PORTOのような日替わり店長の場は象徴的だと思います。マーケットのニーズや組織からの期待に個人の形を変えて当てはめるのではなく、一人ひとりがもっている魅力や“らしさ”を生かす。その人自身を求めている人たちが集まるプロダクトアウトというか“パーソナリティアウト”というような、人格が投影された“やぐどころ”づくりをサポートしていきたいです。



編集後記 ▶▶▶ 開館して40年、変化してきたこともあります。生涯学習と区民の皆さんを繋いでいく場として九段生涯学習館があることは変わらないと、インタビューを通して実感しました。これからも人と人を繋ぐ役割を担える場所として存在できるよう、スタッフ一同、皆さまと暖かい関わりを持てればと思います。(DanDan編集室 上田)

開館40周年Year!

九段生涯学習館は今年度40周年を迎えます。そこで、今年度は3号にわたり、「生涯学習×つなぐ人」をテーマに、「過去：生涯学習をつなげてきた人」、「現在：つなげている人」、「未来：つなげていく人」を特集していきます。

THE 40TH YEAR ANNIVERSARY!



●●●● BATON TO THE FUTURE ●●●●

九段生涯学習館のはじまり×生涯学習をつなげてきた人

千代田区立九段生涯学習館は、生涯学習の振興を図るため、また区民サークルの自主的かつ継続的な学習活動の場を提供する目的で、昭和55年9月18日にオープンしました。当時は「千代田区立九段社会教育会館」という名称でした。

それから40年にわたり、生涯学習と人をつなぐ場としての役割を担ってきました。今号は、設立初期に在席されていた3人の方へのインタビューから、生涯学習と地域の方々とどのようにつなげてきたのか、当時のエピソードを中心に探ります。

もくじ

- ① 特集 | 九段生涯学習館のはじまり×生涯学習をつなげてきた人
- ② すばすたちよだクラブ 季節の彩りワンプレートごはん | サーモンのヘルシー！ヨーグルトタルタル
- ③ シリーズ | 千代田の学び人にあいたい 嶋田匠さん [ソーシャルバーPORTO オーナー]





九段生涯学習館のはじまり×生涯学習をつなげてきた人

小池 譲二さん

現在、千代田区体育協会事務局長。昭和54年から7年間、社会教育課で講座などの事業を担当されていた。

昭和54年4月に社会教育課へ配属されました。その頃は、旧九段社会教育会館がまだ建設中でしたね。昭和55年に建設担当だった人たちが九段社会教育会館に事務所を構え、その後、社会教育課が本庁舎から九段社会教育会館へ移りました。

私自身は、当時は成人の日のつどいの担当になって、実行委員会を運営したり、日曜青年教室^[注1]を担当して、水泳教室、料理教室、ハイキング、夏の宿泊学習、レクリエーション大会も同行していました。当時は社会教育指導員という制度があって、区立小・中学校の先生や校長を退職した方を非常勤で採用していたんです。その方たちに、日曜青年教室を担当してもらっていましたね。

他にも囲碁大会、将棋大会^[注2]は印象深いです。有名な棋士の方が審判長を受けてくださって、大盛況でした。

当時は社会教育会館として生涯学習を総合的に集約して活動できる場ができて、やっぱり区民の活動は活性化したと記憶しています。私は事業を通して区民の方と触れ合えるのが楽しかったです。

今は、千代田区体育協会で、スポーツという媒体を通して感じていることですが、ただ技術を高めて試合に勝つということだけではなく、区民一人一人が自分で楽しみを見つけられるよう、生涯を通して同じ趣味なり、縁を通してコミュニティを作れればと思っています。仲間づくりとか、居場所づくりとか、そういうことは当時と変わらず大切にしていきたいですね。



リーダー講習会^[注3]（昭和59年からは子ども体験教室^[注4]と事業を変える）を担当。

昔はジュニアリーダーの育成を目的に、夏休みに2泊3日のキャンプ会を開催していました。規模も、バス1台で、事務局・指導者を含めて45名程度でした。講師をはじめ野外教育を専攻している学生の協力を得て行っていました。

当時、講師として来てくださっていた上智大学の先生から「キャンプを2泊3日行っただけではリーダー講習にはならない、やはり1年間通して活動しないと育たないですよ」という話をいただき、ちょうど野外教育関係の団体が設立されて協力いただけるということで、昭和59年から子ども体験教室として、月1回のペースでいろいろな活動を行うようになりました。

ジュニアリーダー講習会を卒業した子どもたちが、グループリーダーのような形でボランティアとして本講習会に戻ったりしていたと思います。5年間事業を担当して、千代田区なんて狭いから、歩いていると参加していた子どもたちから声をかけられたり。子どもたちの成長を町の中で見ることができるのは嬉しかったですね。

初代事務担当者としては今もこの事業が続いてくれて嬉しく思っていますし、これからも地域活動に繋げて欲しいですね。そしてこの体験教室で学んだ知識や経験を、ぜひ今後の社会の中で生かしていただけたら大変嬉しいです。

BATON TO THE FUTURE

◀ 原 誠一郎さん

現在、地域振興部総合窓口課 区民相談室に勤務。昭和57年社会教育課配属。当時は、現在の千代田区子ども自然教室の前身の事業である、ジュニアリーダー講習会^[注3]（昭和59年からは子ども体験教室^[注4]と事業を変える）を担当。

風間 栄一さん ▶

現在、地域振興部税務課管理係で課長補佐として勤務。昭和57年社会教育課配属。文化財係として文化財の収集保存展示事業を担当。



昭和61年に四番町歴史民俗資料館を立ち上げるための準備室として社会教育会館の2階を昭和58年から使っていました。現在は日比谷図書文化館です。記憶がある展示は、『目で見える関東大震災展』と『広重展』ですね。これはものすごく来場者がありました。1週間で2000人ぐらい。広重のコレクションをお持ちだった区民の方から話があって、協力を得て展示しました。

とくに、当時の文化財保護調査員の方々がものすごい顔ぶれで、一つのことに精通していて、町会の中でも顔が知れ、地域と社会教育全般をつないでいたんです。あの頃、バブルで、千代田区から転出する区民が多かった。すると、調査員が民俗資料の収集やその家の歴史などの情報収集もしていたんです。調査員が区と町とのパイプ役にもなっていたんですね。転出した方も、資料を寄贈できたことで千代田区に故郷意識もまた生まれて…昔は町の方が中心になって地域の歴史を大切にしよう、文化財を保存しようという意識を持った人が多くいたからこそ、今の資料（収蔵：日比谷図書文化館）が集まったと思っています。

今は、新しい住民の方と町会とのつながりが難しくなっていますよね。これからは文化財保護や生涯学習の部門がニーズに応えている事業をやっていくことで地域とのつながりを築いていけたら嬉しいですね。

[注1]日曜青年教室＝区立小・中学校卒業生および区内在住の知的障害者を対象に、幅広い学習活動を行う事業。現在も内容はほぼ変わっていない。
[注2]囲碁大会、将棋大会＝千代田区で開催される大会。50年以上の歴史がある。
[注3]ジュニアリーダー講習会＝自然の中での生活を通し、地域のジュニアリーダーとして活動できる力を身につけることを目的とした事業。夏だけの活動だった。
[注4]子ども体験教室＝年間通して自然体験活動やキャンプ活動を行うようになり、異年齢間交流や社会体験などを通して、ジュニアリーダーを育成するための事業へ展開した。



▲九段ギャラリーで当時は振り返る風間様(左)



▲2階・ギャラリー 昭和57年11月12日『文化財展』

KUDAN LIFELONG LEARNING HALL KUDAN LIFELONG LEARNING HALL KUDAN LIFELONG LEARNING HALL

建物から見る九段の今・昔

1F ▼現在の自動ドア



▼開館時の自動ドア



©千代田区広報広聴課提供

2F ▼現在の2階・九段ギャラリー



▼開館時の2階・談話室



©千代田区広報広聴課提供

3F ▼現在の3階・和室(大)



▼開館時の3階・和室(大)



©千代田区広報広聴課提供

4F ▼4階・実習室



入口の自動ドアから異なり、40年前の丸いドアが印象的です。今でも、入口で見上げると、上部が円形になっており当時の名残を感じられます。

現在2階には九段ギャラリーがあり様々な展示会でご利用いただいておりますが、当時は談話室として区民の憩いの場となっていました。

時間の流れ、社会の変化とともに少しずつ形を変えながらも、千代田区のみなさまの“学び”を支援する場として40年変わらず過ごしてきました。現在の和室は舞台がとりはられ、床の間になっています。

当時としては珍しく、4階に陶芸のできる実習室があります。今回のインタビューでも、陶芸サークルの方が明るく印象的だったと度々お話にあがりました。現在もサークルのみなさまの活気にあふれています。実習室内の陶芸用電気炉は、当時から重宝されていました。40年間、沢山の作品を生み出しています。